

寺  
ごよみ

寺報

善巧

癸行

■ 938 富山県下新川郡  
宇奈月町浦山 497  
白雪山 善巧寺  
▲宇奈月(07656)5-0055

# 水代祠堂会

七月十四日（二十日迄

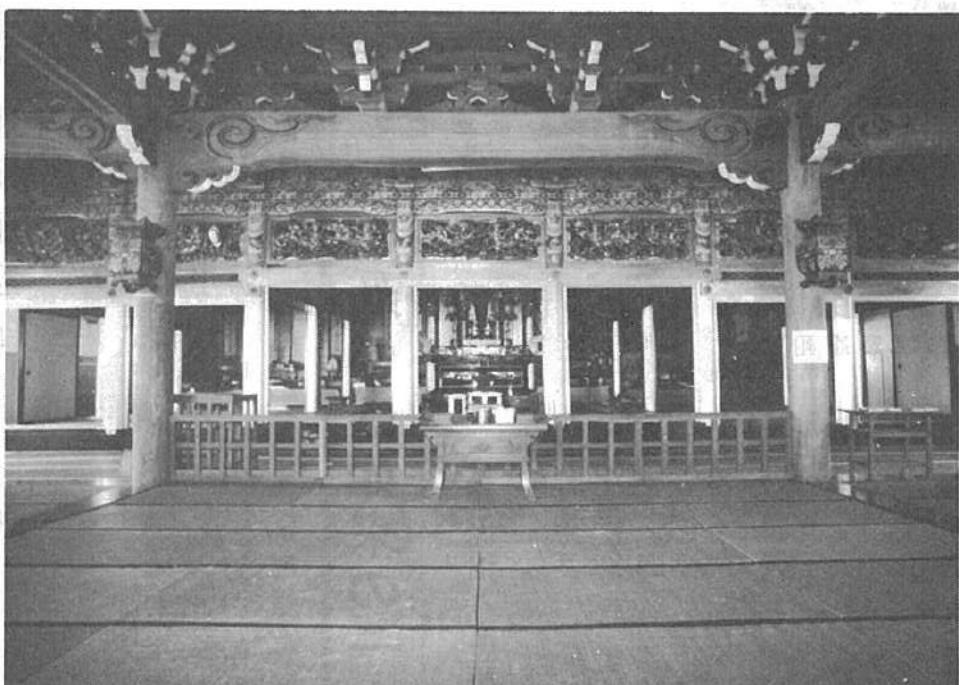
合計五千枚の金箔が使用されます。竹箸で、一枚一枚、柱の下から順に上へ上へと貼られて行きます。その度に、ハッと息を吐きかけて、仕上がり具合を見て行きます。専門語で言うなら、純金箔。三枚掛。板押用。一号色。消二号です。未だ若い四人の手先、指先が仏前莊嚴の営みの中に、光輝いている様に見えます。「精

作業に当たられたのは、次の四人の方々です。黒川義則 昭和二十二年生れ。根本次郎 昭和十九年生れ。古閑浩 昭和二十七年生れ。佐藤修司 昭和三十一年生れ。

# 仏前莊嚴

でも、柱の一本一本に、懇志を捧げられた方々があります。あと一年。仏前の莊嚴は、続いて行く筈です。その一つ一つが、御門徒衆の尊くおごそかな心から、涌き出て来る筈です。

(永代祠堂会)	一四日	午後一時	遅夜
一五日	午後一時	遅夜	
一六日	午前十一時お講中陣		
一七日	午後一時	遅夜	
一八日	午後一時	遅夜	
一九日	午後一時	遅夜	
二〇日	午後一時 満座		
この日は内陣法名の 前で焼香が行われま すので施主は是非お 参り下さい。			
☆バス運行は一六日と二〇日 の二回行います。			



### 金色かがやく内陣の金柱

「有縁の人人相集り 恭恭敬しく仏前を莊嚴し 懇ろに聖教を誦誦して 広大の仏恩を謝しまつらん」

「進潔斎」とは、此の姿だと感じます。試に、字引を見ると、莊嚴はソウゴンと訓んで、「尊くておごそかなさま」とあります。更に、シヨウゴンと訓んで、「寺院仏像などの飾り付け」とあります。

善巧寺の内陣の飾り付けは、尊くおごそかに營まれつります。更に、此の營みの背後には、有縁の人々があります。明教院の

六月十日 秘達は丸柱  
日本の伝来の工芸の偉大を感じました。そして、有縁の人々相集つて、悦びの酒を酌み交わしました。

七月の詞堂会には、御参詣の皆様と御一緒に金色燦爛の内陣で、聖教誦誦の法悦に浸り度い

と思ひます。

御誘い合せの上、是非参詣下さ  
つて、仏前莊嚴の金の柱を御見物  
下さい。

住職 雪山俊之

# 明教院僧鎔は何を説いたか



桐溪順忍和上

「悲しき哉」という言葉は、宗祖は信巻末の真仏弟子釈の結文（大信の結文とも見るべき）のところに用いられているもので、「誠に知りぬ、悲しき哉愚禿鷲、愛欲の広海に沈没し、名利の大山に迷惑して、正定の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことをたのしまざることを恥すべし、傷むべし」とある。

しかも、これは大信の徳を言葉を極めて讚嘆しつゝも、本願を信するものを真仏弟子といい、弥勒と同じとほめ、「臨終一念の夕、大般涅槃を超証す」とた

たえた後に記され  
ここで注意すべ  
は多くの場合 費  
れるのに、ここで  
れているというこ  
ことは、自分は教  
教徒としての資格  
う強い反省が動い  
ていたのではない  
かということであ  
る。

きことは、聖人たるものである。

一面としてのみ意味をもつものであると考えるからである。しかも、この二は、二種深信のよう矛盾性を含んだ一の信心の内容であるから、信心の味道の深まりとして、慶びの内容を動して行き、深めるものだといつてよいでしょう。

救いは如来の一方的な力だ

二種深信と三哉

この「悲しき哉」という自己現実の反省は、そうした悪人が今、救われていくとは…という慶びに変わり、慶びを新たにして深めるものである。それはいつも「誠なる哉」という、間違いのない如来の無倦の大悲につつまれている者の反省であるからである。若し大般涅槃を超証す」とた  
傷むべし」とある。  
しかも、これは大信の徳を言葉を極めて讃嘆し、本願を信ずるものを真仏弟子といい、弥勒と同じとほめ「臨終一念の夕、大般涅槃を超証す」とた

一面としてのみ意味をもつものであると考えるからである。しかも、この二は、二種深信のよう矛盾性を含んだ一の信心の内容であるから、信心の味道の深まりとして、慶びの内容を動して行き、深めるものだといつてよいでしょう。

衆生の参加を

しき哉」の無限の循環であるといつてよいのである。

衆生の参加を  
無限に否定

この「落ちる者が救われる。救われるのに叛いておる。叛いていても救われる」という繰りかえしが慶びを、いよいよ深めるも

な力だ

一一日	盆踊り練習会	親子三代 そろって どうぞ！
一二日		
一三日		
一四日		
一五日	ことども盆踊り大会	
一六日	浦山盆踊り大会	
一九日	総代会	いよいよあと一 年足らずとなつた三法要の具体 的な計画案を検討しますので、 万障繕り合わせてご出席下さい。
二〇日		
二一 日		

## 空華学轍の思想史

三

悲の救いの内省のないものなら「恥  
すべし、傷むべし」という言葉は  
出ないのである。この「誠なる哉」と  
「悲しき哉」とが相たすけて、「  
慶しき哉」を深めるものである。  
といふべきである。

私はこの「誠なる哉」と「悲しき  
哉」の一を二種深信と合わせて味  
わっているのである。それは、「誠

るということを示すものである。だから、二種深信とは、矛盾性・緊張性・循環性の三性質を有するものであるというのである。

三日　一日　お講　石田・生地・中新  
四日　一日　一泊開法　恒例の特別法  
五日　二日　座　三日は夜

四日	三日	一日	恒例の特別法
七時半から、お経の会の皆さんと一緒にお正信偈のおつとめ。このあとのお説教は、若院の実兄利井明弘師。翌四是早朝午前五時から晩天講座が開かれます。	席三日は夜		
この「落ちる者が救われる。救われるのに叛いておる。叛いていても救われる」という練りかえしが慶びを、よいよ深めるものである。無限というものは、いつも繰りかえしによって生ずるものであり、その繰りかえしは、いつも内面的には相反する矛盾性を含るものである。	一九日 総代会	一六日 浦山盆踊り大会	二日 二日
信仰の味道がたえず深まり、思想が常に深まって行くには、その内面に含む矛盾性によるものであるといつてよいでしょう。しかし、その場合に信心の内容としてその反対性である「疑」があるといつてはならないのである。それは信心自身のもつ、二種深信の矛盾性であるというべきである。	一四日 一三日 盆踊り練習会	一五日 こども盆踊り大会	親子三代 どうぞ！
この「落ちる者は救われる。救われるのに叛いておる。叛いていても救われる」という練りかえしが慶びを、よいよ深めるものである。無限というものは、いつも繰りかえしによって生ずるものであり、その繰りかえしは、いつも内面的には相反する矛盾性を含るものである。	万障繰り合わせてご出席下さい。		
この二種深信の矛盾性による円環性が、救済教においては、如來の教済力の絶対性という思想になり、一面では被救者である衆生の絶対惡の思想となり、救いは如來の一方的な力によるものであり、救いに関しては衆生の参加を無限に否定する、絶対他力の思想となり、それが救済教の必然的な思想といつてはならないのである。それは信心自身のもの、二種深信の矛			

## 盛大 仏教団花祭

4月29日

四月二十九日に善巧

寺を会場に催された

黒部地区仏教団の花祭

大会は、とても楽しく、



にぎやかなものがありました。

三日がかりで地元のおとしより

と日曜学校の子供達がつくった十

万個のチューリップの花飾りはじ

て見事な出来ばえで、はじめて訪れた黒部地区の方々はびっくりしていました。

それにはかわいいおじごさん。

寺の長男、俊隆（小二）次男、

教隆（小一）も参列して、大よろこび。

夢を語る会のおじさんたちや

善巧寺婦人会のおばさんたちの

お世話下さった「お店」のコンニャクやワタ菓子、ふうせん、

甘茶の接待もみんなによろこば

るこの寺—国府の勝興寺にもお

まいりしてその大きさにびっくり。

市明光寺におじやまして、そのあと

国泰寺のたけのこ料理に舌つづみ。

こそようこそその旅でした。

れたようでした。来年のこの日はいよいよ、「慶びの春」—春の慶讃法要です。

## たけのこに舌つづみ 4月18日

4月18日には、ようこそ日帰り

バス旅行がありました。明教院の

生家渡辺さん宅と、勉学の寺、上

市明光寺におじやまして、そのあと

国泰寺のたけのこ料理に舌つづみ。

ふるこの寺—国府の勝興寺にもお

まいりしてその大きさにびっくり。

帰りは流行の先取りで、オーブンしたばかりの魚津水族館。よう

こそようこそその旅でした。



## 夜は観桜会

ところでこの日は日中だけにとどまらず、夜は夢を語る会、お経の会、婦人会などが一堂に会して

宮野山仏舎利塔参拝観桜会。おつ

とめがすんだあとは花見もそこそ

こに寺に帰って、歌と踊りの大宴

会。役者、タレントがズラリとそ

ろって、これまた大にぎわいの樂

しい会がありました。

写真右は国泰寺でのたけのこ料理

をいただく門信徒の皆さん。左は

夜の仏舎利塔での記念写真

ところ

(雪)

出来ました。仕上がありました。  
見事です。金色に輝いています。  
大正三年十二月、宗祖六百五十九回  
忌から六十余年ぶりの大修復でした。  
寺の御堂からは、今、慶びの  
声がわきあがつてきています。

この内陣の丸柱の工事は、五十年  
七年の三法要を迎えるにあたって  
の住職の第一番目の願いでもあり  
ました。六十年余りの間に金箔の  
ほとんどがはがれて見るも無惨な  
まだらの模様でした。

「やりましょ。

理

事会の力強い声に、推進委員  
会が結成されたのが昨年秋のこと。

丸柱は二十本。総工費は五二万  
八〇〇円。

「割り当てや負担金などという  
と気が重い。自分たちで出来るだ  
けのことをやらせてもらおうじや  
ないですか。」

との声に多くの委員が賛同。わ  
ずか半年の間に、二十本すべての  
寄進者が決まりました。

四月一。いよいよ工事がはじま  
りました。施工は富山の黒川仏壇。

出来ました。仕上がありました。

旧來の柱のアカを落とし、研ぎあ  
げ作業をくり返し。凹凸にバテを  
つめ、そして下地のうるし塗り。

この作業が最も困難だったようで  
すが、気候とうるしの調合がピタ  
リと合って、万全の仕上がり。

そして、いよいよ六月八日から  
金箔の箔押しはじめました。  
一本の柱が二、三時間でみるみる  
金色に輝いてゆきます。最後の日  
には寄進の方々にも見に来ていた  
だき、寺の金柱はめでたく完成  
をみたのです。

めでたいといえばもう一つ。

じつは、これまでの寺の柱は二  
十本のうち、十二本が金箔で、あ  
との八本は銀箔だったのですが、  
今回はすべてが金箔に！つまり、  
善巧寺の内陣の柱がすべて金色に  
輝いたのは、これがはじめてな  
であります。

以下はその工事のもとを写真  
グラフでご覧下さい。

## 慶びの春

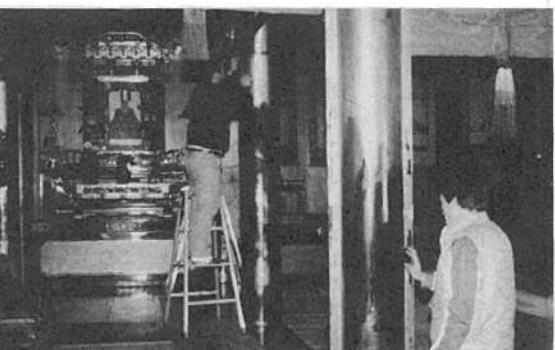
■宗祖誕生 800年  
◇57年4月29日

## 聞法の秋

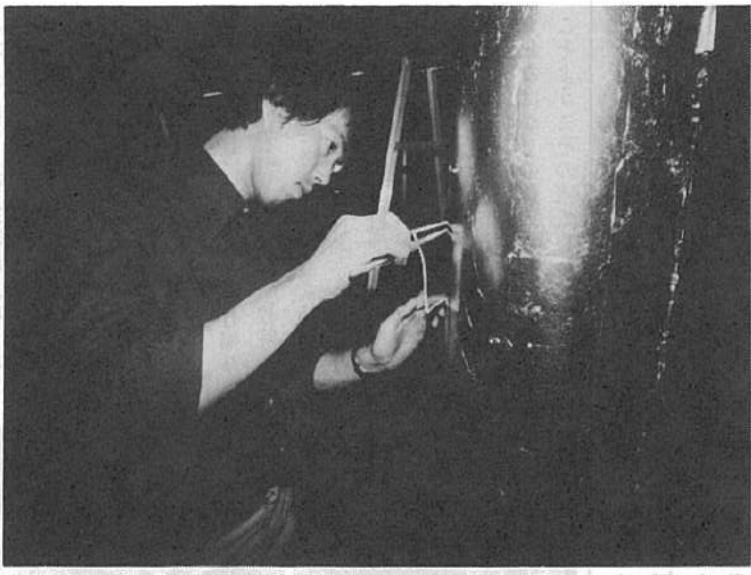
■宗祖 700回忌  
■明教院 200回忌  
◇57年11月3~5日

出来た！

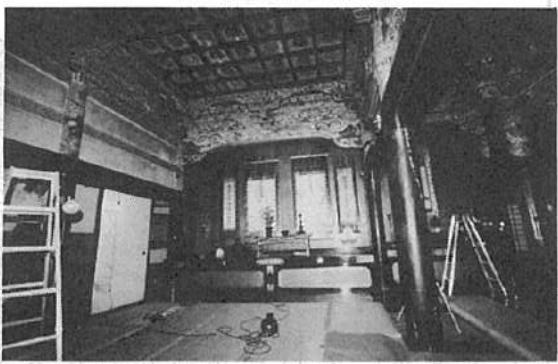
内陣金柱



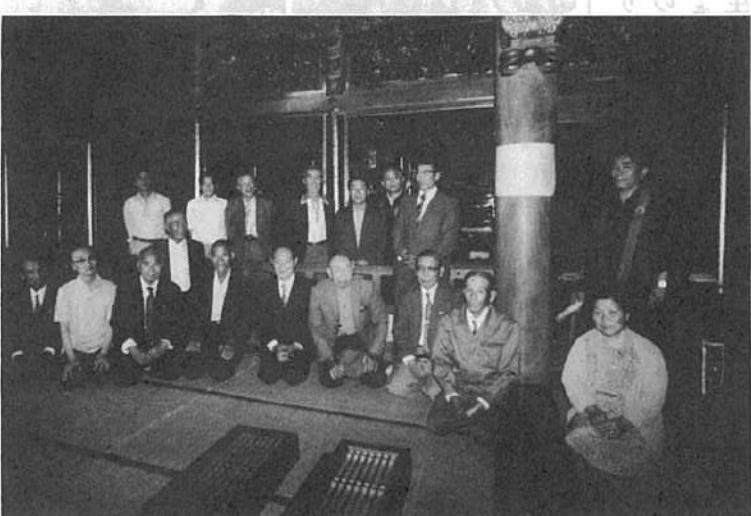
古い柱を研ぎ上げる



金箔をはる



金箔を落とした内陣



仕上がった金柱の前で



うるしを塗る

六月十四日、日曜。早朝より郭公の声頻りなり、本格的梅雨空、鶴鶴三羽、屋根瓦の上を飛び廻っている。本日、法務三つ、小学生の孫達、此處数日、午前七時頃から既に学校に行く習慣となる。校庭にて毎日野球に興ずる由。今日は日曜のため、久しぶりの朝寝坊を決めこむらしい。

九時半、内山より上ヶ法事。参詣十一名。自動車事故にて亡くなつた長男の七回忌なり。当時、乳飲見だつたのが、もう走り廻つてゐる。本堂内陣の莊嚴の後始末のため、面会所にて読経。終わつて、中陣の葬式に向う。一面の曇り空から、しつとりと雨が降つてゐる。葬式のお詣り多数。仮屋が作られ

申し出下さいますようお願ひいたします。

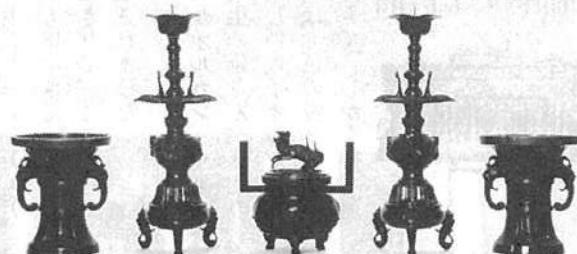
三法要推進委員会

この卷戸は四十二枚あり、六月現在二十枚までの寄進が決まっています。工事発注は七月末の予定ですが、一枚五万円の寄進にあなた是非ご参加下さい。

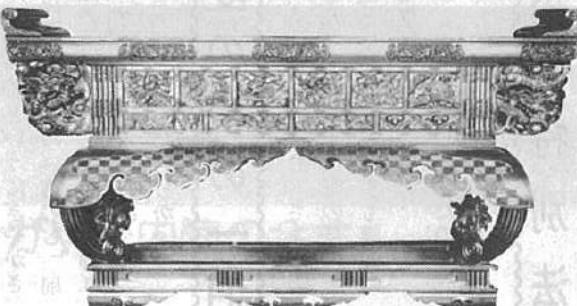
なおこの卷戸の外、来年までになんとか整えたいと考えております。庄嚴、法具の類が沢山あります。予算、お仲間等とご相談の上、お申し出下さいますようお願ひいたします。

三法要推進委員会

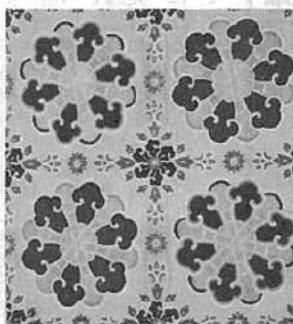
## ご寄進お願い!



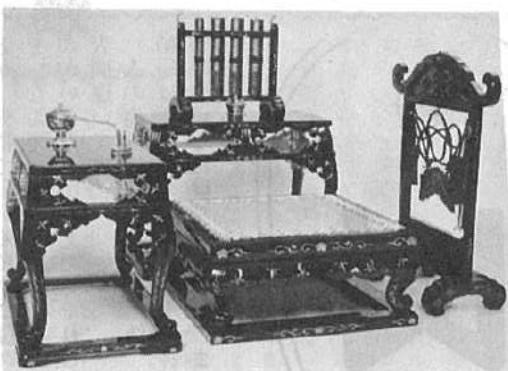
五具足



卓前



山号額打敷



礼盤



### 住職日誌



年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近

松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り

り出して読む。夜食「ライスカレー」。

夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠

つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨

候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り出して読む。夜食「ライスカレー」。夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何となく、項垂れて居る。

帰院三時。僅かのビールに酔つたようだ、書斎のソファにて、眠つたらしく、五時半、家内に起こ

久々に聞く画帖の梅雨湿り

板屋での一時の葬式に辛うじて間に合う。此處も驚く程多数の参

詣。仏は、私と同年の明治四十四

年生まれなり。板屋部落約二十戸の善巧寺門徒のうち、明治生まれは、残るところ男三名とか。親類の一人、入善町長と、久しぶりに会う。二十年ぶりかも知れぬが、相変らず元気にして、入善町発展の未来図など抱負を聞くが、されど五十名近くの人々と会食。昆布と炊き合せの大根の味よし。

帰途は、権藏橋経由。雨は止んだが、車窓より眺める黒部連山、墨候が続くので、洪水の心配がある。

絵の如し。

新聞のテレビ欄を見るに、夜九時より「平家女護島」とあり。近松門左エ門、淨瑠璃集を引っ張り出して読む。夜食「ライスカレー」。夜、テレビに興じ、就寝。十一時。

何と

# 夏の旅=本山→ポートピア

親子三代でご参加を

7月27・28日

夏休みに、京都の本山

エーを走り、夜には帰つてく  
るというコース。

にお参りして、ポートピアへ行つてみませんか。

出発は七月二十七日。明

教院のゆかりの地、水橋

一上市に

立ち寄つ

一泊二日 二万円

申し込みは7・15日〆切

京都へ。

大谷本廟、本山とお参り

して、夜は高槻の若院の

実家に泊ります。

翌二十八日あさは高槻

から一時間で神戸へ。ボ

ートピアで半日遊んで、

あとは名神→北陸ハイウ

には高槻で、聞法の場も設けます。  
どうですか。親子三代そろって  
出かけるのもいいですよ。もちろん  
一人でもけつこう。申し込みは  
お早めに。なお、子供の費用は、  
一万五千円です。

## ご寄進

★ 暫幕 柄屋の野畠松二さん

と浦山の田中静治さん。ご兩人は  
夢を語る会のにぎやかコンビ。「わ

れわれに ピッタリ の感じ」  
と色あざ やかな五 やかな五  
色の幔幕 をご寄進 下さいま した。し



秋の特別法座

9月12日

## 夏の夜の一泊聞法

8月3日

★ポートブルオルガン 今年の  
日曜学校卒業生の皆さんが卒業の  
記念にと素晴らしい電子オルガンを。

このオルガンは七色の音とリズム  
が自由に出てきて、しかも持ち運  
びがかんたん といふもの。

法座のあとの  
恩徳講のメロ  
ディーに耳を傾けて下さい。

善巧寺の新 "おっしゃさま" と

親しまれております恒例の夏の一  
泊聞法と早朝法座。今年も講師は

利井明弘師。  
おふとも新調しましたので、お弁当を持  
とうぞお泊りを…。

今年はじめての秋の特別法座で  
す。講師はめつたに北陸にはこら  
れない行信教校の梯(かけはし)  
実円師。法座は午前、午後の二座  
になる予定ですので、お弁当を持  
てどうぞ。

## 大盛況落語会

今年もまたまた大盛況。「六輔七  
転八倒浦山野休み落語会」——出  
演は永六輔、入船亭扇橋、扇好、  
柳家小三治というおなじみ超一流

の顔ぶれに、今年はなんと飛び入り  
でマジックの女王、松旭斎すみ  
えさんが加わるというにぎやかさ。  
しかし、残念にも田中さんはこの幔  
幕を一度見たきりで、この六月二  
十三日に急逝されました。

橋師匠の「麻のれん」小三治師匠  
の「野ざらし」と古典落語をたつ  
ぶり。マジックもたのしかった。



## ビデオ登場

お寺にビデオのセットがお目見  
化活動を一とくで雪ん子劇  
団のお芝居から、花まつり、落語  
会の記録、そして、金箔の柱の出  
来上がるまでの記録も編集してあ  
ります。祠堂経をご覧下さい。

最後の手じめはわざわざ江戸から  
この落語を聞きにきたプロボウラ  
ーの須田開代子さん、女優の浜美  
枝さんと小三治さんでシャンシャ  
ンシャン!

夢の会の皆様ありがとうございます。また  
来年もよろしくね。

としも大盛況で、小三治師匠のこ  
とばを借りれば、「今日はこのへん  
の通りには人が居ませんナ」とい  
う感じ。おひざ送りも二度三度で  
ありました。

ところで、その会で永六輔さん  
がお話になつたボランティアの一  
節は、胸にズシンとこたえること  
でした。

「みなさん、ボランティアとか  
福祉とか、めぐまれない人たちに  
愛の手を! なんてちかごろとて  
よく使われることばですけど、  
いいですか、愛の手なんて、だれ  
も持つていなんですよ。持つて  
いるのは右手と左手だけ。もし福  
祉なんてこと考えるんなら、その  
両手を求められればお貸しすれば  
それでいいの。単に近所づきあい  
とか、人情でいいんです。」愛の手  
を「なんてさしのべてよろこぶも  
のがいるなんて考えたらそれこそ  
大間違いです!」

人の為は一字にする「偽」—  
結局はオノレの好みを相手に押し  
つけているだけなのかも知れませ  
んね。

合掌